

[地域密着型サービス 運営推進会議 記録]

事業所名	介護事業所きこえ	所在地	佐倉市染井野4-5-4 他
サービス種類	■ 認知症対応型共同生活介護		■ 特定施設入居者生活介護
開催日時	2019年3月4日 (月) 17:30-18:30	開催場所	佐倉市染井野4-5-4 介護事業所きこえ内
出席者	行政・包括支援センター	佐倉市臼井・千代田地域包括支援センター	: 1名
	地域住民代表	千代田地区民生委員・児童委員協議会	: 1名
	知見を有する者	ケアステーションひまわり王子台 介護支援専門員	: 1名
	利用者ご家族様	都合により欠席	: 0名
	事業所職員	管理者(2名)、管理室長、手話通訳	: 4名
		合計	: 7名
議題	1. 挨拶及び運営推進会議の目的について		
	2. 参加者自己紹介		
	3. 各地域密着型サービス事業所より現況報告		
	4. 会社からの報告		
	5. 出席者より質疑応答、総評		
	<p>3. 各地域密着型サービス事業所より現況報告</p> <p>◆特定施設入居者生活介護(シャロームきこえ染井野)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用状況 <ul style="list-style-type: none"> ↳入居人数: 26 (定員27名) ※満床 ↳平均年齢: 壱番館91歳/弐番館86歳 ・入退去 入居: 2名、退去: 2名 ・男女構成 男性6名、女性: 20名 ・平均介護度 壱番館:弐番館=2.7:2.4 ・イベント等活動報告 <p>①節分に向けてのレク (1月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ↳福笑い形式で、鬼のお面を作成。皆様同じ鬼のお面ですが、目、鼻、口、角等の位置が違っており、個性のある作品となりました。 <p>②豆まき (2月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ↳節分のイベントとして、豆まきを行いました。まずは、鬼の顔が描かれたボードに向かってお手玉を投げるゲームを行いました。次に、職員が鬼のお面をつけ、皆様は鬼のお面をかぶった職員に向かってお手玉を投げました。 <p>③おやつ作り (2月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ↳2月14日のバレンタインデーにちなんで、ホットケーキを作りました。ご自身で果物や生クリームをトッピングして頂きました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット・事故発生状況 <p>ヒヤリハットの内容①</p> <p>【内容】薬のセットについて</p> <p>【背景】看護職員が1週間分の薬をセットする時、薬箱の上で薬のシートをハサミで切っていた。その時、切った薬のシートが気づかずに他の枠に入ってしまった模様。介護職員によるダブルチェックで誤って入ってしまった薬を見つけることが出来、誤薬を未然に防止することが出来た。</p> <p>【対策】ダブルチェックを徹底していく。薬シートを切る時は薬箱の上ではなく、薬箱から離れて切ること。また、薬の変更等があった場合は必ず申し送りをする事。</p> <p>◆認知症対応型共同生活介護(グループホームシャロームきこえ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用状況 <ul style="list-style-type: none"> ↳入居人数: 18 (定員18名) ※満床 ↳平均年齢: 87歳 ・入退去 入居: 0名、退去: 0名 ・男女構成 男性0名、女性: 18名 ・平均介護度 2.4 (前回2.4) ・イベント等活動報告 <p>①制作活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ↳毎月恒例のA0サイズ用の紙にちぎり紙を貼っていくといった大規模な制作活動であり、今回は「梅の花とウグイス」を作成しました。今回も皆様と協力し合って行い、立派な作品に仕上がった (作品の写真を共有)。 <p>②節分会</p> <ul style="list-style-type: none"> ↳2月の恒例のイベントである豆まきを行った。職員が鬼となり、皆様が鬼 (職員) に向かって豆を当てるレクリエーションを実施。 		

③A様の日常生活の様子

「A様は転倒により、大腿骨骨折をする。退院後、ホームに戻られ、以前と同様な生活を送る為にリハビリやマッサージ等を日々行っている。その結果、少しずつ回復し、伝い歩きが出来ようになった。またA様のケアをする事で、職員一同勉強となることが多くあった。

・ヒヤリハット・事故発生状況

事故の内容①

【内容】歩行が不安定で介助を要する又は車椅子が必要な入居者様が居室内等のスタッフの目の届かない場所での転倒

【対策】細目な見守り、職員間での申し送りを徹底行う。

事故の内容②

【内容】入居者様の服薬タイミングの間違い。情報共有が出来ておらず、服薬するタイミングを間違える。看護職員に入居者様の状態を確認してもらい、ご本人の状態は安定しており、特に変化はなく問題はなかった。

【対策】職員間での申し送りを徹底行う。特に薬等が変わった場合は必ず共有すること。またダブルチェックは怠らないこと。

4. 会社からの報告

・先日、千葉県健康福祉部高齢者福祉課から「社会福祉施設等における服薬時の確認の徹底について」の通達があった。誤薬による事故は利用者の生命に関わるため、当社として誤薬ゼロを目指す取り組みについて参加者と共有する。（例：介護職員とダブルチェック、ご本人にも確認して頂く、等）

◆出席者より質疑応答・総評

(地域住民代表) ・2月17日に千代田ふれあい演芸会を千代田壮で開催しました。30組のボランティアから催しを披露して頂きました。参加者がまた多くなっており、このような高齢者の集いの場を大切にしていきたい。来年度からは敬老会が無くなるため、他の方法で高齢者が集まる事が出来る場を設けていく。その場があることで、高齢者のひきこもり防止にも繋がる。

・2月14日にネットワーク会議へ参加した。現在、障害者・児童・高齢者の虐待が注目されている。30年度の高齢者の虐待件数は昨年比べて減ったが、8050問題や認知症問題等がある。

(知見を有する者) ・報告を聞き、グループホームや有料老人ホームの取り組みはスライドを見る事で参考になった。

・民生委員（地域住民代表）や地域包括支援センターからの話も参考になった。

(地域包括支援センター) ・きこえより3月6日付の認知症サポーター講座参加申込をして頂いた。認知症の方に対する対応や地域の取り組みを知って頂く事で認知症・地域に対する見方が変わると思う。

・虐待に関して、地域包括支援センターも相談窓口として様々な相談にのっている。虐待の疑いがある言動や行動に注意して見ている。